

# 令和元年度 “ふじのくに”<sup>しみん</sup> 士民協働 施策レビュー 改善提案とりまとめシート

## 1 基本情報

政策	政策 2 安心して暮らせる医療・福祉の充実		
政策の柱	2-1 安心医療の確保・充実と健康寿命の延伸		
議論した施策	(4) 生涯を通じた健康づくり		
実施日／班名	10月27日(日) 第6班	担当部局名	健康福祉部 健康増進課 国民健康保険課

## 2 施策改善提案

静岡県は、健診データ等の統計分析など、先進的な取組を行っており、健康寿命が全国2位、メタボ非該当者の割合も全国2位と健康度が高い。現状を更に伸ばし健康長寿日本一となるためには以下のような方策が必要である。

- 大病の経験者の言葉を、健康無関心層へ届ける機会の創出（特に子どもや若い世代での接点を増やす）
- 健診データの統計分析など健康に関する先進的な取組を県民に伝えるための情報発信の強化（特に若い世代を対象とした SNS 等による情報発信）
- 健康度の地域格差解消のための原因分析と対策（分析データの更なる活用）
- 健康と大きく関わりのある食の重要性を認識してもらうための取組
- 「健診を受けたい」などの必然性を作ることによる健康診断受診率と健康意識の向上

行政も健康への対策は行うが、自分の体は自分で守ることが根底にあることを県民に周知する必要がある。

- 県の健康施策を広く周知するため、SNSをはじめとした様々な手法により、特に若い世代や無関心層に対して情報発信をすべき  
また、健幸アンバサダーの拡充を図ることで身近な人からの情報発信に取り組むべき
- 疾病体験者の方が若い世代等に体験談を語っていただく交流の場や機会を創出し、健康づくりに取り組むきっかけづくりが必要
- 市町や教育機関、企業等と連携し、若い世代や無関心層に対して健診受診を促す仕組みの構築が必要
- ヘルシーメニュー「しずおか健幸惣菜」を、社員食堂だけでなく高校・大学等の給食や学食などへ拡大や、全国に先駆けて取り組んでいる食育の更なる推進により、食事について日常的に考える機会を創出すべき
- 県の取組と健康マイレージのポイントを連携するとともに利便性を高めることで、県民が行動に移した際にインセンティブを感じる仕組みの構築が必要
- 県の調査により判明した健康の地域格差の分析を進め、県民や企業に情報発信するとともに、市町と連携し地域格差の解消に取り組むべき